

様

謹啓

陽春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

地球温暖化や環境問題が、急迫の課題として全世界でその対応等が議論される中、私は自らの政治テーマを「輝く未来を、子どもたちに」としています。この地球を、責任を持って次世代に手渡してゆくために、私たちは今、あらゆる可能性を実行に移してゆかねばなりません。しかし、無理せず身の丈にあった方法で、と考えています。

私は、川崎市議会議員として、「建築家・市民・母」の視点を活かして政治活動に取り組み、多岐にわたる環境問題に対しても、議会質問等を通じて多くの提案をしてまいりました。

例えば、建築物環境配慮制度「キャスビー川崎」では、ミシュランのように☆印をつけて、環境にやさしい建物をわかりやすく表示すべきと指摘、提案後制度ができて2年間で103件の届出がありました。

また、屋上緑化を推進すべく、公共建築物における責務も指摘しながら提案し、現在では、公民併せて1haを超える新たな緑の創出になっています。壁面緑化においては、当選して初めての議会において「緑のカーテン」を取り上げ、以来小学校などでの取り組みを推進し、去年は全市でのゴーヤによる緑のカーテン運動に発展しました。

その一方で、私は議員として、行政に提案して取り組みを強化するばかりでなく、自らも主体的に環境問題に取り組みようと、昨年7月、地元多摩区の「民家園通り商店街・夏祭り」において、商店街のご協力の下、リユース食器の使用に川崎市で初めて取り組みました。小さな子どもたちからお年寄りまでご理解とご協力を頂き、コップの回収率も非常に高く、うれしいお言葉も沢山頂きました。

意識啓発に主眼を置いたこの活動は成功を収めました。その後、議会において事例とし紹介し、提案した結果、多摩区民祭（生田緑地）・市民マラソン（多摩川）・Jリーグ開幕戦（等々力競技場）などで、次々にリユース食器が使われるようになりました。最近では、Jリーグ・川崎フロンターレとして、どんぶりをリユース食器にする、という報道もされたところ です。

私は、自ら行動するということに確信をもつと同時に、個の意識・個の力が如何に大事かということも、さらに強く感じました。

一人の市議会議員では限界があります。私は、議員として責務を果たすと同時に、市民の皆さんと一緒に環境問題に取り組み、皆さんとともに、輝く未来を子どもたちに手渡してゆきたいという強い気持ちに動かされ、持論である社会起業家の育成のためにも、このたび特定非営利法人「川崎省エネ普及の会」を立ち上げることを決意いたしました。

幸いにも私の周りには、建築家、政治家のみならず、志の高い諸先輩方が大勢いらっしゃいます。願わくば、ご教示頂きながら一歩ずつ、歩を進めて参りたいと存じます。

西岡様におかれましては、趣旨をご理解頂き、何卒、発起人会の世話人をお引き受け頂きますようお願い申し上げます。

謹白

平成21年4月吉日

川崎市議会議員 吉沢 章子